

白虎隊の「義」伝えたい

白虎隊の会

b y a k k o t a i n o k a i

会誌 10 号

Vol.9 2020年4月

白虎隊の「義」後世に



目次

本年度事業をふり返って	飯沼一元…………… 2
会津藩塩川本陣跡飯沼貞吉ゆかりの地記念碑	
	森川敬寿…………… 3
会津白虎隊の全貌	飯沼一元…………… 4
寄合白虎隊奮戦の地を旅して	星野紀子…………… 5
会津若松観光ボランティアガイドのご案内	
	永田 清…………… 6
会津支部だより	石田明夫…………… 7

會

発行者 白虎隊の会

下関支部報告	吉井 克也…………… 8
本部便り	飯沼一元…………… 9
会員名簿……………	10-11
編集後記	飯沼一元…………… 12

本年度事業をふり返って

事務局長 飯沼 一元

戊辰百五十年の一大イベントを終了し元号が

変わって新規一転ムードになったと思いきや、予想もせぬ新型コロナウイルスで世界は一変した。目に見えない敵だけあって対策は難しい。マイ

ファースト主義では勝てないだろう。世界の一人一人が身を正し、協力し合うことが必要と思う。このような非常事態でも「ならぬことはならぬ」の教えはきつとプラスに働くと信じている。

本会は、「白虎隊の「義」を後世に伝える」ことを目的として活動している。そのために白虎隊記念碑を設置し史跡として残すことを心がけている。本年度は会津若松から約十キロ北の塩川にある会津藩本陣近江屋跡に飯沼貞吉ゆかりの地碑を設置し除幕した。詳細は次ページ参照。また、11月には会津若松市北公民館で、「飯沼貞吉と関弥」と題して講演した。北公民館は貞吉の実弟関弥が2度に亘って校長を務めた永和小学校の隣で、地元の人たちの関心が高い。

この講演会は石田明夫氏が企画したもので、当日は約40名が集まり、好評だったと思います。飯沼関弥は貞吉の9歳下で戊辰時は5歳だった。彼は母とはぐれて城に避難したが、2週間で足手まといになるからと城外に出され乳母の手で高田に預けられた。戦後は飯沼家と一緒に極寒不毛の斗南で窮乏生活に耐え、会津に戻ったの

は明治6年である。

このため、まともな教育は受けられず少年期を過ごしたが、何とか教職の道を見つけ、飯沼家の父母家族を支えた苦勞人である。

山川健次郎に頼まれ明治32年から23年間に亘って会津藩の家令(執事)を務めた。自伝「藻汐艸」をはじめ、会津史のバイブル本「会津戊辰戦史」の出版、藩宛に届いた書簡集「山高水長」など貴重な資料を残した。なお、長男一省は内務省から明治22年第7代の東京都長官になった。健次郎の三女照子の夫東龍太郎が東京都知事になったのはその12年後である。



飯沼関弥 (せきや) 永和小学校長

今回は、前日から奥会津の湯野上温泉に泊まり、翌日は森川さんに大内宿を案内していただ

きた。紅葉が美しくとても楽しい一日となりました。殆ど毎年会津には出かけていますが、記念式典をこなすのに手が一杯で、魅力一杯の会津を堪能する余裕がありませんでした。

会員の皆様にも、これを機に、会津を楽しんでいただこうと考え、「会津の見どころ」を石田明夫さんに紹介していただきました。また、史跡案内を有資格ボランティア活動として取り組んでいる永田清さんにも寄稿をお願いしました。



大内宿を訪ねて

会津人群像に「会津白虎隊の全貌」と題して寄稿文の執筆を開始したのは2018年の11月でしたが、2019年9月に出版されました。全60頁の長編となりました。詳細はP4をご覧ください。

下関支部が「長府万骨塔(白虎隊一九士と山川健次郎の霊石)」、「会津間諜神戸岩蔵墓」および「美祢市小杉の恩愛の碑」の墓参や護持活動を継続しています。

会津藩塩川本陣跡飯沼貞吉ゆかりの地記念碑

会津支部長 森川 敬寿

年号も令和に変わった昨年9月23日には喜多方市塩川町東邦銀行塩川支店の敷地に「白虎隊士飯沼貞吉ゆかりの地記念碑」を建てました。

自刃（8月23日）後印出ハツに救出された貞吉はここで塩川村の漢方医三本住庵の治療を受けました。当時の塩川村は若松から米沢に至る米沢街道の要衝の地で、近江屋は会津藩の本陣になっていました。翌日米沢へ向かう長岡藩主牧野忠訓一行が宿泊し、随同行の軍医阿部宗達と吉見雲台に西洋医療の治療を受け一命を取り止めました。

この間のいきさつは、平石弁蔵が『会津戊辰戦争』に詳述していますので、一部を抜粋しておきます。

宿に着き、奥の下座敷、便所に通ずる廊下の一間に入れられたが、気が緩んだと見え又々人事不肖になった。宿屋でも心配して町医者三本住庵を呼んできて、傷口を縫い膏薬を付けてくれたのがその翌日二十四日の午前十時頃であった。然るに夕刻になると傷口がまた非常に痛み出した。丁度その時今の九時頃になると武装した人が、私の部屋に突然入ってきて、何か印出の婆さんと話をして立ち去った。それより十分

間ほど経つとまた来て、黒皮製の箱より外科用の道具を取り出し、私の傷口を縫った糸を残らず抜き取り、水にて洗いそのあとに白き粉薬を水にて溶き、それに綿散糸（ガーゼ）を浸し、これを丸めて傷口に詰め込み、その上を包帯した後、粉薬、ガーゼ、包帯等を十分に与え、今後の手当て法を教えてくれた。

また、白虎隊事蹟には、軍医曰く、「この傷は気管を破りたれども動脈を避けたり、治療の方法に依りては年若き人なるにより、或いは全癒す可し」と。

当地の道路向かいには三本住庵が眠る浄土宗阿弥陀寺が有り、今も貞吉を見守っているようです。

除幕式には復興副大臣菅家一郎様、衆議院議員小熊慎司様、遠藤忠一喜多方市長、齋藤勘一郎喜多方市議会議長、大場健哉喜多方市教育長、安藤利之東邦銀行執行役員、永瀬芳幸東邦銀行塩川支店長、飯沼一元白虎隊の会事務局長、白虎隊の会会員の方々、地元の方々など三十名を超える大勢の皆様が参列されました。

除幕式終了後、希望者の皆様は喜多方市沼尻にある不動堂に向かいました。不動堂は正式名

称を紫雲山来迎院清流寺と言い塩川で治療を受けた後、一ヶ月程隠棲していた場所で米沢街道より一キロ程山中に入った所にあり、お堂の十メートル程後ろには高さ五メートル程の滝が水量豊かに流れ落ちています。

お堂の手前には「蘇生白虎隊士飯沼貞吉ゆかりの地」の石碑が飯沼家により建てられています。今、この場所に佇むと、山が迫り滝の轟音が響き、この様な場所で真冬の寒さと傷の痛みに耐え何を思う毎日だったのか「痛心堪え難く」という言葉が浮かびます。

白虎隊の会の活動は今後も継続して行う予定です。皆様のご協力をお願いいたします。



会津藩塩川本陣近江屋跡（東邦銀行塩川支店敷地内）に設置した飯沼貞吉ゆかりの地記念碑と序幕参加者

会津白虎隊の全貌

事務局長 飯沼 一元

会津人群像No39に「戊辰150年を終えて―白虎隊」が掲載され2019年9月に出版されました。会津人群像は歴史春秋社が発行する会津の雑誌で、寄稿文を取りまとめた形で出版されます。執筆者は会津関係者が多いこともあり、会津では人気があります。

白虎隊を取り上げた記事としては2010年No16「飯沼家に伝えられた白虎隊の真相を語る」で筆者が『白虎隊顛末記』の発見を機に「白虎隊の戦闘行動と自刃の決定プロセス」と「蘇生白虎隊士飯沼の生涯」の2編および飯沼貞吉の手記「白虎隊顛末記」と「白虎隊の人員」を全文掲載しました。この特集では、土屋貞夫氏の「飯沼貞吉と檜崎頼三」や山本貞壽氏の「白虎隊と長州人」、大庭紀元氏の「日本最初の白虎隊士墓碑」も掲載され、正に白虎隊を取り巻く要衝がまとめられました。

その4年後の2014年に井上昌威氏が「白虎隊の真実」を発表。白虎隊自刃者6人説を展開しました。歴史春秋社はこれを「異説」という特別扱いで出版しました。その後、同氏の講演活動等により、メディアが興味を示すようになり、2018年7月14日に、BS-ITBSで『諸説あり―白虎隊の真実―』で全国放映されました。

飯盛山の白虎隊墓碑には19人の白虎隊士が祀っており、毎年春と秋の2回、会津弔霊霊会主催の慰霊祭が行われています。ところが、会津の歴史研究家（I氏）がテレビに登場し、「自刃したのは6人、残りは戦死だった」、「この事實は会津の人なら誰でも知っている」、自刃した理由は「もうこれ以上戦えないと思ったから」と証言したのです。

番組製作者から見れば、これこそ「諸説あり」で定説を引っくり返す醍醐味を味わったことでしょう。視聴者から見れば「白虎隊士は大部分が戦死したのに、これまで150年に亘って自刃と偽って喧伝してきたとは……会津も観光客集めに甘い汁を吸ったわけか」となります。

これでは、「白虎隊の『義』を後世に」処ではありません。会津の歴史と信用は丸つぶれになります。風評ほど厄介なものはありません。ゆゆしき事態に陥るのを避けなければなりません。BS-ITBSの再放送をはじめ6人説の拡散を阻止するため、I氏に撤回文を出してもらい、これをテレビ局に送り、飯沼貞吉の自刃者16人の証言をテレビ局のネット解説に掲載してもらい、一旦終止符を打ちましたがこれで問題が解決したわけではありません。

「会津白虎隊の全貌」の執筆を開始したのは2

018年11月でした。2010年の「白虎隊の真相を語る」で書き尽くしたと思っていました。が、未だにとんでもない「異説」が飛び出すとすれば、再度白虎隊の全貌を整理して出版してもらう必要がある。早速、石田明夫さんに相談し、連名での執筆で了解を得ました。

全体構成は、Ⅰ白虎隊の誕生から出陣まで、Ⅱ白虎隊の戦闘、Ⅲ白虎隊の自刃、Ⅳ白虎隊の顕彰の4部構成とし、Ⅱを石田氏、その他を飯沼が執筆しました。全体を通しての柱は、「白虎隊はなぜ自刃したのか？」にしました。その導入部になるⅠでは、「会津藩は負けを承知した上で、なぜ戦ったのか？」を柴五郎の回想録を引用し、言われなき朝敵・国賊の汚名という理不尽を正すためと強調しました。このため、松平家秘蔵の「孝明天皇のご宸翰」を松平家14代当主松平保久様から特別に許可を頂き掲載しました。Ⅲでは白虎隊の自刃理由を「武士の本分を明らかにする」という白虎隊顛末記を引用し会津武士として徹底教育された白虎隊士の「ならぬことはならぬ」、即ち、朝敵の理不尽への潔白の証であることを主張。Ⅳはこれまでにない新しい試みで、戊辰戦争終了後に、白虎隊はどのように顕彰されてきたか、特に飯盛山白虎隊墓地の変遷、自刃白虎隊士の人数、ドラマ・テレビ・歌舞伎・演劇などメディアでのとりあげ方について整理しました。全62頁の大作となりました。

寄合白虎隊奮戦の地を旅して

会員 星野紀子（東京都）

戊辰戦争において会津藩の越後、新潟方面の国境防衛には多くの藩士が赴いた。中級藩士の子からなる寄合白虎隊も含まれる。越後戦線における会津藩士の戦いぶりは、取り上げられることが少ない。どのような場所でしたか戦ったのか、現地を訪れた。

慶応四年七月十二日、寄合白虎隊一番隊・二番隊は城下を出発。束松峠を越え、会津藩の防衛本部が置かれた津川へ到着。二十五日新発田藩が奥羽越列藩同盟に背き、西軍側に付いたとの報せが入る。八月初旬、一番隊は赤谷口（新発田藩境）、二番隊は石間口（越後境）の守備へ。一触即発の戦場へ向かったのである。

二番隊は石間口に着くと阿賀野川対岸の佐取村（現在の咲花温泉）の胸壁に布陣する。八月十日仏暁（明け方）、北西の馬下から越後戦を経た西兵が押し寄せ、近くの佐取山へ登り応戦。激しい砲撃戦に耐えきれず、会津藩兵は長徳寺と本陣とした肝煎石井佐久次郎方に火を放ち、渡河し石間口に後退した。この戦いで星勇八（二六歳）が戦死。寄合白虎隊初の戦死者となる。現在の花咲駅が古戦場跡であり石碑が立つ。引き揚げた石間で、百瀬外次郎（十七歳）、小松八太郎（十六歳）が戦傷により絶命した。

一番隊が向かった赤谷口は、津川から北北東

に十八キロ、悪路の諏訪峠を越える難儀な行程で、当時赤谷村は会津藩領であった。八月十四日の仏暁、会津藩軍と新発田、芸州、薩摩、長州藩等の西軍側の両軍が、偶然にも同時刻頃に本道と山間部の二手に分かれて進軍し接近戦となった。会津藩は合言葉を決めていた。「味方か？」と問えば「敵だ」と答えるもので、「味方」と答えれば斬るのである。誰が定めたのかは史料に特定を見出せないが、接近戦を想定したのだろう。会津藩士酒井傳治が三人の兵に向かい問う。彼等は「味方」と答えた。「何藩なるか」と問えば「側戦隊」と答えた為、高倉虎之助と共に二人を斬捨て一人は逃走した。西側に山々、東手に川があり、間の断崖地に本道が通る。戦時は逃げ場がないと実感する地形だ。

白兵戦では会津藩が優位に立ったが、敵が後退し広い地に出れば、銃器に勝る西軍が有利となる。会津藩遊撃隊中隊頭三宅小左衛門が一人の兵の胸を突いたところつかんで離さず槍先が抜けない。刀を抜き肩口を斬りつけたが、他兵から腹を刺され死す。三宅を助けようと駆けつけた小池瀧江は数人を斬捨てて銃弾に斃れる。白いたすきを懸け、力士隊を率いる赤埴平八は大声で鼓舞し奮戦するがいに銃弾に斃れた。平八の刀はのこぎりのようになったという（遊

撃隊日記。会津戊辰戦史）。戊辰の役七十周年の際、中々山村県道沿い山裾に「角石原古戦場跡碑」が建立された。

寄合白虎隊は胸壁を守備していたが、山間部の敗報を聞き本道へ出ると、八方山からの銃撃に遭い赤谷まで後退。この時佐々木新太郎（一六歳）が銃弾に斃れた。父・佐左衛門も後退した新谷村の戦いで十五日戦死。新谷では陣將上田学太輔も負傷し、寄合白虎隊は胸壁を守備し孤立奮戦しているところを援護され退却。会津全軍はついに津川へ退却した。明治十七年七月、赤谷地区村民により上赤谷に「会津藩戦死碑」が建立された。会津藩は十九名が戦死。氏名不明、収容出来なかった遺骸も多かったであろう。静かに手を合わせた。



会津藩戦死碑 明治17年 赤谷地区建立

会津若松観光ボランティアガイドのご案内

会津支部 永田 清

会津支部長の森川敬寿氏よりお誘い頂き、白虎隊の会に入会して4年目となり会津での催事に参加し良き経験をさせて頂いております。

この度、飯沼一元事務局長より会津観光ガイドについての寄稿依頼が有り、紹介を兼ねて会津観光のご案内を致します。私は財団法人会津若松観光ビューローに所属し鶴ヶ城ボランティアガイドとして活動し9年目となり訪れる方々へ史跡・名所等を巡り会津の歴史をご案内しています。鶴ヶ城ボランティアガイドは、今年で創設27周年になります。

ガイドの皆さん歴史好き・会津好きの人達の集まりで直ぐに意気投合し歴史の話になると止まりません。60名程在籍し（男女半々位）平均年齢は、70歳前半位だと思います。毎月ローテーションを組んで担当し楽しく元気に活動し、お客様には、そのおもてなしが大変喜ばれております。

ご案内の箇所は、鶴ヶ城・白虎隊自刃の地飯盛山・藩主の別荘御薬園をメインにガイドをしています。ご希望に応じて「まちなかコース」

や「ご希望コース」にも対応しております。まちなかコースをご紹介しますと、「会津戊辰戦争を巡る」「会津のお寺を巡る」「鶴ヶ城と城下町を巡る」「会津酒造巡り」がモデルコースです。モデルコースは、所要2〜4時間程度で案内手前は、自家用車・周遊バス・タクシー等で交通費はお客様負担となりガイド料は無料です。詳しくは、またはご予約はホームページにてご覧ください。会津若松観光ビューローで検索しボランティアガイド欄を見て下さい。

更に紹介しますと、会津ファンクラブを検索してください、入会金・年会費無料のファンクラブです、会報誌の送付や会員特典等も有ります、入会申込みフォームでメール入会も出来ます。

会津にお越しの節はボランティアガイドをご利用頂き、歴史と会津の良さを体験して下さい。また、新酒鑑評会7年連続日本一の会津清酒も是非ご堪能ください女性にも大人気です。

皆さんのおいでを、心よりお待ちしております。



2月の御薬園（筆者撮影）



鶴ヶ城の案内マップの前で（筆者）

会津支部だより

会津の見どころ1 白虎隊編 石田明夫

今回より会テーマに関連する会津津地方の見どころを紹介します。鶴ヶ城は除きます。

一 飯盛山 会津若松市一箕町

市営無料駐車場があります。

① **白虎隊士の墓** 鶴ヶ城を向いて墓を建立。

イタリアとドイツの記念碑もあります。

② **飯沼貞吉(貞雄)の墓** 広場の南東にあり。

③ **自刃の地** 鶴ヶ城が見えます。

④ **郡上藩陵霜隊士慰霊碑** 広場の南にあり。

⑤ **さざえ堂(国重文)** 世界唯一、らせん状階段

の木造層塔。西国三十三観音を安置していた。

⑥ **宇賀神堂・十九士慰霊堂** 稲作の神を安置

各隊士それぞれの服装で安置されています。

⑦ **戸ノ口堰洞門** 白虎隊士が出てきた洞門、

現在は全長一八〇㍎あり、猪苗代湖の水です。

⑧ **厳島神社** 弁天様を祀る海運の神。南北朝

時代からあります。

⑨ **飯盛山古墳** 山頂に四世紀初頭、全長六十

五㍎の前方後円墳があります。未発掘。

⑩ **立石山洞窟** 飯盛山山頂東にあり、江戸時

代前半の隠れキリシタンの洞窟。長さ五十

㍎。

⑪ **太夫桜** エドヒガン桜、蒲生忠郷時代に亡

くなったいつき太夫墓の脇にあります。

二 滝沢本陣 会津若松市一箕町 駐車場あり

国史跡・国重文 横山家所有

接続する横山家住宅は東北最古級の民家。

南東側に江戸後期建てられた本陣があり。

白虎隊出陣の場所。弾痕、刀疵が多数あり。

三 滝沢峠 会津若松市一箕町 車通行不可

白虎隊士が通った石畳の白河街道。途中に戦死者の墓があります。

四 強清水 会津若松市河東町強清水

二本松裏街道にあり、天ぷらまんじゅう発祥の地(もろはくや)、茶店が三軒あり、そば処です、清水や白虎隊の看板もあり。

五 戸ノ口原 会津若松市河東町強清水

① **二十二人の墓** 強清水集落東、街道脇にあり、左端が戸ノ口で戦死した白虎隊士の墓です。

② **菰土山** こもつちやま 白虎隊が最初に陣を張った所で夜、

新選組と敢死隊に交代。

③ **新四郎堀** 白虎隊士の原田・山内隊が布陣

した用水路。菰土山の南、街道南にあり。

④ **姥山** うばやま 篠田隊が戦闘直前までいた陣地跡。

塹壕があります。車は路駐。

⑤ **白虎隊戦闘地** 姥山の東、奮戦の地の西側、

原野と畑の部分、篠田隊が戦った所です。

⑥ **奮戦の地** 看板と石碑があります。白虎隊以外の敢死隊などが戦った場所で、道路の東側に戦死者の墓があります。

⑦ **西軍陣地跡** 県立会津レクリエーション公園内、国道脇の駐車場から南西百㍎の丘上に五十四㍎の塹壕があります。

六 十六橋 会津若松市湊町戸ノ口

猪苗代湖水の出口に架かる橋。薩摩の川村隊が二十二日夕、最初に攻めて来ました。

七 会津藩校日新館 会津若松市河東町高塚山

もと鶴ヶ城西側にあり。日本三大藩校の一つ。日本最古のプール、日本最初の給食、日本唯一の天文台が市内に現存、日本最古のマラソン(片道五十四㍎)もしていた約千人の男子校です。

八 袋山 会津若松市東山町石山

渡部ムメと印出ハツが飯沼貞吉をかくまった所。石切山の北です。

九 塩川本陣跡 喜多方市塩川町の東邦銀行

飯沼貞吉が自刃翌日の十時頃、印出ハツに歩いて連れられ到着した本陣跡。

十 沼尻不動堂 喜多方市関柴町沼尻

飯沼貞吉が隠れ、印出ハツとハツの伯父に一月治療を受けていた堂。

十一 満福寺 喜多方市馬場

白虎隊長だった日向内記の墓があります。

下関支部報告

支部長 吉井克也

一 はじめに

令和元年は、豪雨等様々な災害が何度も日本列島に襲いかかってきた厳しい一年になりました。被災者の皆様方には、心からお見舞い申し上げます。私たち日本人も、自然環境の保護に向けて、今こそ立ち上がらなければなりません。

さて、今年の下関支部の活動は、今まで携わってきた「長府万骨塔（白虎隊一九士と山川健次郎の霊石）」「会津間諜神戸岩蔵墓」「美祢市小杉の恩愛の碑」の墓参や護持活動を行いました。また、会津・長州をテーマにした講演会や赤間関街道ガイドウォークにおいて、飯沼貞吉と赤間関街道の関わり等について紹介をしました。

二 主な活動

- 五月一四日 亀山儀式殿夜話会
講演「長州の中の会津」
- 六月八日 神戸岩蔵墓道づくりと清掃
恩愛の碑草刈整備と慰霊
- 六月一九日 下関第一ホテル経営者モーニングセミナー講演「長州藩士・会津白虎隊士 恩愛の物語」
- 八月二日 神戸岩蔵墓参と研修会
- 一〇月二二日 下関市民文化セミナー講演「赤間関街道沿の歴史的再考」会津

と長州」

- 十一月一〇日 赤間関街道リレーウォーク（飯沼貞吉が通った恩愛の道を紹介）
- 二月二二日 令和元年度総会及び研修会
予定

三 おわりに

恩愛の碑護持活動には、美祢市と萩市からも、六名の方がご参加くださり、とても心強く思いました。

また、記念植樹をした会津見知らず柿も萩の夏みかんも元気に育っております。特に見知らず柿は、当地で回生をした飯沼貞吉さんのようにぐいぐいと成長しており、今年は実をつけるのではないかと期待しています。

これからも下関支部は、幕末・明治維新期の歴史を一層謙虚に学ぶことと、長州の中にある会津ゆかりの史跡を大切に護り、次世代にその意義を伝えていくことです。

山口県にお越しの際には、ぜひ一報ください。長州の中の会津をご案内させていただきます。



岩蔵墓参



赤間関街道恩愛の道



恩愛の碑護持作業

本部だより

1. 会員

2019年度の新入会員は4名（昨年比－5）でした。会員名簿管理上、会費2年未納者は休会、3年以上は退会とし、物故者と共に名簿から削除しました。その結果、2020年3月末現在、名簿登録会員数は106名（－18名）となりました。内訳は特別会員34（＋5）、一般70（－23）、賛助2（0）。地域別内訳は会津23（－5）、東京38（－1）、下関13（－3）、京都7（－2）、長崎4（0）、その他21（－7）名となりました。

2. 活動

主な活動実績は表に示すとおりです。黄色は、本文に記事が紹介されています。

年月日	主な活動（予告を含む）
2020年9月22日（予）	会津藩滝沢本陣白虎隊出陣・帰還の地記念碑序幕（会津若松市）
2020年4月24日（予）	春の飯盛山墓前祭休会
2020年4月16日（予）	会報第10号発行
2020年4月2日（予）	年次総会（インターネットで）
2019年11月2日	北町市民講演会「白虎隊士飯沼貞吉と弟関弥」会津若松市北町
2019年9月24日	秋の飯盛山墓前祭参加（森川敬樹、芦澤直太郎）
2019年9月22日	会津藩塩川本陣跡飯沼貞吉ゆかりの地記念碑序幕（喜多方市塩川町）
2019年9月1日	白虎隊の全貌 会津人群像No39発刊
2019年4月16日	会報第9号発行
2019年4月2日	年次総会（インターネットで）

3. 決算報告

白虎隊の会	貸借対照表		単位（円）		損益計算書		単位（円）
資産の部	1,088,453	負債の部	0	収入の部		支出の部	
現金及び預金	1,088,453	未払金	0	会費	252,000	HP構築外注費	11,380
未収入金	0	負債の部合計	0	寄付	192,000	会誌発行	134,061
		前期繰越残高	1,013,424	書籍代	126,423	広告販促費	40,000
		今期損益金	75,029	会報名刺	0	説明版移設	288,576
		次期繰越残高	1,088,453	助成金	0	支払手数料	21,377
資産の部合計	1,088,453	負債純資産合計	1,088,453			今期損益金	75,029
会計監査	令和2年3月31日現在			合計	570,423		570,423

会計監査

平成31年度の決算報告書及び預貯金記録を照合精査した結果、いずれも誤りなく執行されていることを認めましたので、ここに報告いたします。

令和2年3月31日 会計監査役 緑川 正和 印

4. 2020年度の計画

新規会員獲得目標5名、総事業費は50万円を予定。

1. 会津藩滝沢本陣近くに白虎隊出陣・帰還の地記念碑を設置し序幕（石田他）
2. 会津会々報第126号に「白虎隊の記念碑設置」を投稿（森川・飯沼）
3. 3年後の戊辰155年に向けて、子孫隊出陣の準備開始（森川）ほか

白虎隊の会 設立趣意書

会津白虎隊は1868年（慶応4年）3月1日に会津藩の最年少軍隊として組織され、戊辰戦争で皇国への義を掲げて、新政府軍と戦いました。

数え年16～17歳で編成された白虎隊は総勢約300名で、うち約30名が戦死し、17名が飯盛山で自刃しました。

彼らはこの戦いで、会津の教え、を健気にも最後まで守り通しました。

会津の教え、とは『ならぬことはならぬ』に象徴される生活の掟でした。

いつ、いかなる場面でも『義』をもって生きることが彼らの行動規範でした。

生き残った白虎隊士の多くは、国賊の汚名を着せられ、流罪となり、死んでいった戦友たちへの忸怩たる思いを抱きながら、艱難辛苦に耐えました。

一方、会津白虎隊の壮烈果敢な行動は「皇国への犠牲」としてモデル化され、戦争に利用されました。

あれから144年、会津白虎隊士の子孫は4代目から5代目を迎え、情報は散逸し、史実は風化しつつあります。

しかし、白虎隊物語は、日本人の心の中に生かし続ける必要があるのではないのでしょうか？

私たちは白虎隊の『義』を現代および将来に伝え、広めることを目的として、【白虎隊の会】を設立しました。

この会は、1.調査・研究、2.交流、3.事業企画 の3つを中心に会員自らの活動を原動力として推進いたします。本会の運営は会則に示すとおりです。入会資格は問いませんので、趣旨に賛同いただける方の入会を切にお待ちいたします。

2010年4月1日

【白虎隊の会】設立発起人一同
文責 発起人代表 飯沼一元

《編集後記》

会報は10号を迎えました。

2月から編集にとりかかりましたが、新型コロナのためにあっという間に世界が変わってしまいました。幕末から明治維新にかけての激変と比較すると、世界経済へのインパクトは今回の方が圧倒的に大きいのですが、死者数ではおそらく戊辰戦争が圧倒的に多いでしょう。失われた命の重みを実感します。さらに、第2次世界大戦では300万人の命が失われました。

戊辰戦争で散った白虎隊士に学ぶものがあると信じ、白虎隊の会を立ち上げて10年。貞吉証言を大切にし、“義”に生きた白虎隊士を現代の若者に伝えたい。

会誌第10号を皆さんの協力により、発行することができました。継続は力なりと自分を戒めながら、老骨に鞭を打っています。

2020年3月 飯沼記

♪白虎隊の会について♪

★入会は自由です。入会金は無料・年会費は三千元です。

5年分一括納入へのご協力をお願いしています。

郵便振込先加入者名：白虎隊の会 □座記番号00100-1-616556

【白虎隊の会】事務局

〒156-0054 東京都世田谷区桜丘2-24-14 TEL:03-3429-6652 FAX:03-3429-6654
発行責任者 事務局長 飯沼一元

ホームページを変更しました：http://byakkotai.club/

検索